



AUE News

2013年2月15日

第 56 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(2月16日-28日)

● トピックス

- ・公開シンポジウム「いま『いじめ』問題を考える」
- ・「ヨウジ no ゴヨウ」展
- ・ガラス作品展
- ・キャリア支援セミナーで竹中刈谷市長が講演

・竹のインスタレーション

・総合研究棟の新設決まる

● お知らせ・報告・投稿

・院生の千賀しほさんが学長表彰

・附属高校の足立教諭が文部科学大臣優秀教員に

・社会科の学生が映像コンテストで優秀賞

・海外協定校からの招へい教職員紹介

・催しもの案内

行事予定(2/16-28)

- 19日(火) 役員会部局長会議(13:00~ 学長室)
評価委員会(役員部局長会終了後、学長室)
- 20日(水) 教員人事委員会(13:30~ 第三会議室)
代議員会(15:00~ 第五会議室)
- 26日(火) 役員会(13:00~ 学長室)
- 28日(木) 保健環境委員会(10:00~ 第五会議室)

トピックス

公開シンポジウム「いま、『いじめ』問題を考える」(2/2)

公開シンポジウム「いま、『いじめ』問題を考える～愛知教育大学からのメッセージ～」が2月2日(土)午後1時から、名古屋市中区の名古屋商工会議所会議室で開催されました。本学が主催、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会の後援。

いじめによる生徒の自殺や体罰など教育現場を揺るがす問題が波紋を広げる中、外部講師による基調講演と本学の関係専門分野の教員によるパネルディスカッションの2部構成で行われ、教育関係者、市民、学生ら約120人が参加し、いじめ防止や教育のあり方についてヒントを得ようと、真剣な表情で講師の話に聴き入っていました。

本学の松田正久学長が「いじめ問題は社会の縮図ともいわれている。教員の質向上を目指している大学として、課題を見つける場にしたい」とあいさつ。第1部は弁護士で南山大学法科大学院講師の多田元氏が「いじめ問題と向き合う～子どもの視点から」をテーマに講演しました。

多田氏は、「葬式ごっこ」の対象にされた生徒が遺書を残して自殺した中野富士見中学校事件(1986年)などいじめの象徴的事例を紹介。「中野富士見中事件で東京地裁はいじめ行為はそ



れ自体違法ではなく、克服すべき生徒の発達の課題とした。別の事件の福島地裁判決（1990年）では学校側の過失を30%と認めた一方で、自殺した生徒は登校を拒否すべきだったと生徒に40%、登校させた保護者に30%の過失があるとした。これには怒りを覚えた」などといじめに対する当時の司法の認識の乏しさを指摘しました。



また、教師がいじめの被害、加害双方の生徒を呼び「仲直りの儀式」をさせたケースについて多田氏は「いじめた側は謝って免責されるが、被害者はその後、不登校になった。儀式で被害者の心の傷は癒えない」とした上で、「学校教育法35条による出席停止も、子どもから意見を聴かない。ある県立高校で暴力的ないじめに遭った生徒が加害生徒の顔をナイフで切った。この事件では、生徒会が署名運動をして和解し、2人とも学校に戻り、卒業したが、いじめは、被害者が加害者になり、逆の場合もある。解決には相談を含めて子どもの参加が大切。学校には権力性、封建性、閉鎖性の体質があるが、学校と地域、子どもと大人のパートナーシップによる協力が本当の問題解決につながる」と述べました。

第2部は折出健二副学長がコーディネーターを務め、小関俊祐助教（学校教育、心理臨床）川北稔准教授（教職大学院、社会学）萬屋育子特任教授（教職大学院、児童福祉）松原信継准教授（学校教育、教育法）に多田氏も加わり、パネリストが、教育実践例、報道といじめの本質のギャップ、いじめ予防の取り組み、いじめ防止法などそれぞれの専門分野における研究成果を報告、提言を行いました。参加者との意見交換では会場から「不登校は子どもの権利、に共感した」「教育大学として先生になる前に人権意識を持つよう育成してほしい」「現場の教師力が衰弱している。子どもの相談に答えるしんどさを克服できるか、状況は厳しい」「時宜を得たテーマで関心を持って聞いた。防犯ボランティアをしているが、学校は地域の意見を取り入れてほしい」などの多くの質問、意見が寄せられ、パネリストが答えました。折出氏が「いじめ問題では、子どもが仕返しを恐れて証言しないこともある。子どもの意見を決めつけず、教師が日頃から子どもの話を聴くべき。人権意識の核は他者への尊厳であり、これを大学で多様な生き方の仲間と学びながら議論していくことで、実際に身に付けることを実現したい」と述べ、予定時間を延長して午後4時45分、シンポジウムを終了しました。（法人企画部長 中原道文）



「ヨウジ no ゴヨウ」展(2/2-11)

つまようじを使ったユニークな展覧会「ヨウジ no ゴヨウ」が、2月2日（土）～11日（月）、刈谷駅前商店街のギャラリー「スペースAqua」で開催されました。

同展は本学OBで、知多市在住の葉山亮三さん（30）の個展。本学大学院を修了し、現在は中学・高校などの非常勤講師を務める葉山さんは、在学中は木や金属などいろいろな素材で彫刻作品を制作、3年ほど前から新しい表現を試みる際、身近なつまようじを素材にすることを思い立ちました。今回は、つまようじ1500本を接着剤でつなぎ合わせた幾何学模様の太陽や、2万5000本を立てて並べて凹凸で模様を表現した作品や、つまようじを球状の木片に位置を変えながら刺して物語風にストーリーを展開させる作品など10点が展示され、来場者を楽しませました。



「つまようじは一番安い素材で、最初は平面重点で作品に。さらに、先端を接着したV字のパーツをつないでいくと、



そのまま形になりました。これだけ作るのは大変でしょうと言われますが、彫刻作品の複雑な工程に比べたら、やりながらすぐに作品になるんです。晩酌がてら作品ができました（笑）。つなぎ合わせる角度や位置を変えると、また違った模様ができるのも面白いです」と葉山さん。

2日には、子ども向けのワークショップ「ツマヨウジの動物たち」が行われ、12人が参加。発砲スチロールにつまようじを立てて凹凸を作り、魚や犬、猫や小鳥など思い思いの作品づくりに挑戦しました。会期中、子どもたちの力作も合わせて展示されました。



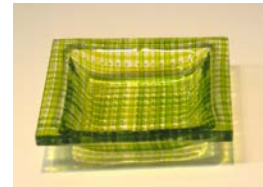
ガラス作品展(2/4-8)

本学の造形文化コースのガラス工芸を専攻する学生による「ガラス作品展」が2月4日（月）～8日（金）、附属図書館アイ♥スペースで開催されました。

同展は、同専攻の3年～大学院生の5人が後期に制作したガラス作品を、授業の一環として展示したものの。緑の格子模様が美しい緻密な器や、水面のゆらぎのように複雑な陰影が表現された作品、まるで生き物が変化するかのような感じを表した造形作品など、それぞれガラス加工の技法を駆使した個性的な16作品が展示されました。作品をいかに見せるかを考えて、配置や展示棚、照明の当て方などにも配慮した展示の実践として、期間中には出品者や指導教員の佐々木雅浩准教授との講評も行われました。



作品を鑑賞した2年生は「先輩たちが作品づくりをしている姿は見ていましたが、作品になると改めて感動します。自分もガラス工芸の難しさが分かるだけに、すごいなと思いました」。別の学生は「学内にガラス工房があるのは知っていましたが、作品を見るのは初めて。ユニークで面白い作品ですね」と話していました。



出品した学生は「図書館での展示ということで作品のクオリティーも意識して制作しました。照明の当て方や作品棚など作品として見せるための演出が難しかった。いろいろ課題も分かりました。愛教大でガラス工芸をやっていることを知らない人もいるので、作品づくりを知ってもらいたい」と今後の作品展への意欲を語りました。



キャリア支援セミナーで竹中刈谷市長が講演(2/6)

キャリア支援センター主催の「キャリア支援セミナー」が、2月6日（水）午後2時～3時、第二共通棟411教室において、竹中良則刈谷市長を講師に迎えて開催されました。

同センターでは、昨年度から、教員、企業及び公務員の進路別にセミナーを開催しており、今回は、将来公務員を目指す学生を主な対象としたもので、昨年度知立市長及び安城市長を講師に迎えて実施したのに続き、3回目。

竹中市長は、「私が考える公務員像」と題して講演、はじめに、市長自らのプロフィール、教育観、青年期の友情の大切さ等について触れた後、なぜ刈谷市職員になったか、また、職員として職場で経験したことや考えたことについて話されました。

これらを踏まえ、竹中市長が、市職員から市長になった今、職員への思い、とりわけ自らが提唱する公務員像「4C1S」、すなわち公務員として、クリーン（清潔）シチズン（市民的）チャレンジ（挑戦）コスト（ニーズに合致した仕事）スピード（迅速さ）の5項目を確立



するために、①自ら考える人材、②自ら提案していく人材、③現場を大事にする人材の育成の必要性について、思いを語られました。



セミナーには約 50 人の学生が参加しましたが、とりわけ公務員を希望する 3 年生にとって、今回の講演は、公務員として働くことを改めて考える機会となりました。

（キャリア支援課長 三浦孝史）

竹のインスタレーション(2/7)

学内の竹林で自生する竹をそのまま利用したアート作品を制作・展示しながら環境を整備しようという「竹のインスタレーション」が完成し、2月7日（木）午後、講評が行われました。



作品づくりに挑んだのは、初等美術選修・中等美術専攻の 1 年生 32 人。4 グループに分かれ、新しい造形環境を創ろうと、宇納一公特別教授の指導の下、1 月中旬から制作を開始。美術実習棟の南側に広がる竹林で、まずは密集する竹を伐採。グループごとに作品の構想を練り、素材の竹と“格闘”しながら、思い思いの作品を

形にしていきました。

後期の授業の締めくくりとして行われた講評では、グループごとに作品タイトル、意図、制作で苦労した点などを発表。「植物の命」をテーマにしたグループは、「竹を切ったり割ったりした時に、素材の丈夫さやしなやかさが分かり、植物の水分や命を感じた。竹の弾力を生かして、曲げて飾ることで、根を張ってわき出る生命を表現しています」と紹介。「バンブリズム」のタイトルで作品を発表したグループは「強弱、明暗を竹を使って表現。やぐら、らせん状など形状の異なる 4 点の作品で、音だけでないリズムを感じてもらえたら」と解説。他にも、竹のトンネルを通り抜けることで竹の質感を楽しめる作品や、竹でパイプオルガンを表現した作品などが紹介され、宇納教授は、「仕事量が少ない」「環境整備を合わせて考えて」などと指摘、大学院生からは「いろんな要素を取り込んでいい作品にしてある」などの指摘がありました。

これらの作品は、現場を整備した上で、ランタンを飾るなどして、3月上旬から一般にも公開される予定です。



総合研究棟の新設を発表 (2/14)

2013 年度予算案の連絡があり、総合研究棟新設や本部棟耐震改修などが計上されたことを 2 月 14 日（木）に開催された本学の定例記者懇談会で松田正久学長が明らかにしました。延べ床面積 3000 m²規模の大規模な教育研究施設が建設されるのは 20 年ぶりとなります。

総合研究棟の建設予定地は、第一人文棟の西側。3 階建て鉄筋コンクリート造で、完成は 2014 年 3 月が目標。教職大学院、共同大学院博士課程、教育研究創造機構など、本学の教育研究の充実に資するものと期待されます。

懇談会で松田学長は「念願だった総合教育棟新設予算が措置され、20年ぶりに大規模な教育研究棟ができることは、大変ありがたい。高度教員養成などの機能を集約し、大学のシンボルになる建物にしたい」と述べました。

予算案ではほかに、体育館等改修などの復興関連事業、特別経費プロジェクト（小学校外国語活動、学習支援データベース、エコキャンパス、教員養成キャリア、教員養成機能の充実など）の案も示されています。

お知らせ・報告・投稿

院生の千賀しほさんが学長表彰(報告)

12月にフィリピンで開催された「第24回アジア生物学教育協議会」(隔年会議)においてベストポスタープレゼンテーションを受賞した千賀しほさん(教育学研究科理科教育専攻1年)への「学長表彰」が1月30日(水)午後、学長室で行われ、松田正久学長から表彰状と教育研究基金報奨金が渡されました。

千賀さんの研究は、フクロウが未消化物をペリットとして吐き出す習性を利用し、食物連鎖の教材として開発を行うと同時に、日本国内でフクロウを飼育する動物園と連携することにより社会教育施設と学校現場とをつなぐ可能性を示唆した新たな教材開発であり、開発した教材を中学校で授業実践に用いて、教材の評価をも行った研究でした。



表彰式で、松田学長から研究資料であるペリットの収集方法について尋ねられた千賀さんは「フクロウを飼育している旭山動物園や東山動物園、近畿地方の複数の動物園にペリット提供の依頼を直接行い、収集し分析しました」と話しました。松田学長からは「今後の活躍を期待しています」との激励の言葉が贈られました。(学生支援課 学生企画担当係長 南部博)

附属高校の足立教諭が文部科学大臣優秀教員に(報告)

附属高等学校の足立敏教諭が、1月28日(月)に東京・メルパルクホールにおいて、2012年度文部科学大臣優秀教員として表彰を受けました。これは優れた成果を挙げた教員を表彰することで、教員の意欲を高め、資質能力の向上に資することを目的としたもので、今回は国公私立の教員828人(うち国立16人)が表彰を受けました。



同教諭は、これまで附属高等学校の理科教育に熱心に取り組み「科学三昧 in あいち」や「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」へ生徒と共に参画する等、附属高等学校の理科教育発展に優れた功績を残しています。中でも「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」は、文部科学省が進める「理科大好きプラン」の一環として最先端の科学技術を子どもたちに伝えることを目的としているもので、高校が大学や研究所と連携して独自のプログラムを企画するものです。

また、2003年度から京都大学、名古屋大学、名古屋工業大学をはじめとする県内外の大学と連携し、30以上の企画を延べ約90日にわたり実施する一方、研究活動にも熱心に取り組まれて多くの研究会で発表が行われています。そして、2012年度には「鈴木一宮浦クロスカップリングによる簡便な液晶合成法の教材化」という研究で、独立行政法人日本学術振興会科学研究費を採択されています。

さらに、同教諭は学校運営においても、2011年度から進路指導主事として、附属高等学校の

キャリア教育の要として活躍されています。

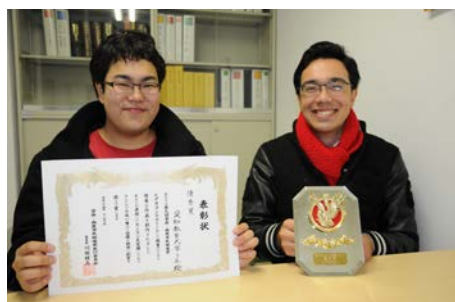
なお、表彰式の概要については、次の文部科学省 Web サイトをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/01/1330260.htm

(附属高等学校 教頭 稲澤由以)

社会科の学生が映像コンテストで優秀賞(報告)

本学の社会科選修・専攻の学生が制作した映像作品が「第9回碧海・西尾市民映像祭ビデオコンテスト」で優秀賞に選ばれ、昨年11月10日に行われた受賞式で手にした賞状と盾を持って、学生が広報室に報告に訪れました。



映像を制作したのは伝甫直幸さんと若松グスタボさん(写真左から、共に初等社会選修4年)、嘉村麻未さん、奥村真由子さん(共に中等社会専攻4年)。4人は昨年2月、3年生の社会科の土屋武志教授の総合演習の授業で、小学生向けの映像作品「君ならどうする、登下校の防犯」を制作し、同5月に映像祭出品。一次審査、本選を経て、グランプリ、準グランプリに次ぐ優秀賞を獲得した。

初の映像作品制作とあって、地元ケーブルテレビ局のチャンネル大地の協力で、ビデオの講習などを受けて作品づくりに臨んだ伝甫さんたち。小学生向けとあって、ドラマ仕立てで2択クイズを織り交ぜ、不審者への行動を考えてもらおうと工夫し、8分40秒の作品に仕上げました。制作期間は2カ月半、テーマを決め、シナリオづくり、学内での撮影、編集まで、専門家のアドバイスを受けながら「いろいろ意見を出し合いながら、小道具づくりなど、限られた時間の中で、ギリギリに完成。優秀賞に選ばれて驚きと同時に嬉しかった」と伝甫さんと若松さん。「映像作品づくりを通して、技術や対象者によってどう見せればいいのかを学びました。今後いろいろな機会にビデオ作品を利用していきたい」と抱負を語りました。

海外協定校からの招へい教職員紹介(お知らせ)

今年度の「海外協定校からの教職員招へいプログラム」には、すでに9人の教職員が参加しました。2月1日には台湾の協定校から2人の教員が新たに来日し、本学で研究活動を行っています。

① 林恵娟 氏 (台湾・国立聯合大学教授)

滞在期間：2013年2月1日(金)～2013年3月31日(日)

研究内容：1. Numerical modeling of fluid flow and heat transfer
2. Optical glasses
3. Thin films process
4. Steelmaking



② 黄素真 氏 (台湾・国立聯合大学教授)

滞在期間：2013年2月1日(金)～2013年3月31日(日)

研究内容：1. Liquid crystal devices (such as display, sensors, microlens)
2. Optic finer
3. Integrated optics



国際交流センターでは、1月に来日した魯熙正 氏(韓国・光州教育大学校教授)の講演会を、2013年2月21日(木)午後5時から大学会館中集会室において開催します。また、上記2人の先生の講演会も、3月中旬以降に予定しています。詳細は改めてお知らせしますので、ぜひ奮って

ご参加ください。

催しもの案内

◆卒業・修了制作展 2012

2月20日(水)～24日(日) 9:00～17:00 (最終日は14:30まで) 入場無料
刈谷市美術館

美術・造形文化コース・大学院美術専攻を卒業・修了する70人の計100作品を展示。

◆海外協定校からの招へい教職員による講演会(第5回)

2月21日(木) 17:00～18:00

大学会館2階「中集会室」

講師・題目：魯熙正(Noh Huijeong)氏(韓国・光州教育大学校教授)

「学校暴力に対する道德教育的な処方」

使用言語は、日本語および韓国語(通訳付き)。

問い合わせ：国際交流センター TEL 0566・26・2179

◆2012年度「第2回リベラル・アーツ Edu セミナー」

2月22日(金) 13:30～15:30 入場無料、事前予約不要

第二人文棟1階 日本語教育第一演習室

対象：本学教職員・学生

主催：教育創造開発機構 大学教育研究センター リベラル・アーツ教育部門

テーマ：ジェネリック・スキルの教育方法—授業実践報告に基づく検討—

内容：① 趣旨説明

大澤秀介氏(社会科教育講座教授)

② La科目におけるジェネリック・スキルの育成について

久保田祐歌氏(大学教育研究センター研究員)

③ 授業実践報告

藤木大介氏(学校教育講座講師)

上田崇仁氏(日本語教育講座准教授)

問い合わせ：大学教育研究センター リベラル・アーツ教育部門

<http://www.aichi-edu.ac.jp/higher-edu/liberal/>

担当 久保田祐歌さん TEL 0566・26・2548

◆愛知教育大学混声合唱団 第43回定期演奏会

2月24日(日) 17:00開場 17:30開演 入場料500円

三井住友海上「しらかわホール」(名古屋・伏見)

内容：1. 混声合唱曲集 うたう！

2. 混声合唱団のための らおしょ カクレキリシタンの3つの歌

3. 演出付きステージ 世界はそれも愛と呼ぶんだぜ

4. 客演指揮者ステージ 混声合唱団曲集 楽器のように

問い合わせ：高堰(たかせき)さん TEL 090・1830・1351

<http://aikyokon.lolipop.jp/>

◆2012年度エコキャンパスづくり成果報告会

2月27日(水) 13:00～17:00 参加無料

大学会館 中集会室

対象：一般、教職員、学生

問合せ：学生支援課 保健環境係 TEL 0566・26・2187

◆愛知教育大学 書道専攻 10 期生・書友会「卒展」

2月27日(水)～3月3日(日) 9:30～17:00 入場無料

(入場は16:30まで、最終日は16:00まで)

名古屋市博物館

卒業制作作品のほかOB協賛作品、書友会在学生・書道専攻3年生の作品も展示。

編集後記

2月下旬は美術や書道の卒業・修了制作の展覧会が開かれます。4年間(あるいは6年間)の学びや研究の成果が形になって一堂に並ぶ会場で、取材の一環で観賞できるのはこの時期の楽しみです。刈谷市美術館では、ガラス、彫刻、版画、木工、彫金、絵画、デザイン、染織など、幅広いジャンルの美術作品が、名古屋市博物館には、何度も練習を重ねて書き上げた書道作品が勢ぞろい。学生たちが若い感性を素材にぶつけて表現した作品には、いつも感動があります。さて、今年はどんな作品で驚かせてくれるのかと、ワクワク、ドキドキ。開催が待ち遠しい今日このごろです。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二